

【面河山岳博物館・新しい面河溪観光のデザイン事業】

これからの面河溪観光を考える講座

～エコツーリズムとトコロジストの可能性～

明治より開発が始まった歴史ある観光地、面河溪。名勝、国定公園に指定され、「天下の絶景」とまで呼ばれましたが、近年はその利用者は減少し、多くの施設が老朽化を経て取り壊しを迎えています。しかし、雄大な景観や希少な動植物の価値は昔のまま変わっていません。その価値を再発見し、時代に合った新たな仕組みの中で利用を考える必要があるはずです。

今回の講座では、面河溪における観光開発の歴史とエコツーリズムの意義を知ること、これからの観光をどう形作っていくか考えます。その際、カギとなる「トコロジスト（場所の専門家）」の必要性和その可能性について、みなさんと学びたいと思います。



昭和初期に発行されたと考えられる面河溪の絵葉書
※中央は関門の空船橋だが現在より低い位置にあり、手前には木製の栈道がみえる。

【主な内容】

- ・面河溪観光開発の歴史
- ・エコツーリズムとは？どんな考え方？
- ・石鎚山系でのエコツアーの取り組み
- ・トコロジストとは？活動と必要性・可能性
- ・自然と文化の保全に必要なもの
- ・トコロジスト活動の実習ほか（面河溪にて）

平成 30 年 5 月 20 日(日) 10:00~15:00

面河住民センター・大ホール 久万高原町渋草 2431
※久万高原町役場面河支所の横

講師：山本貴仁（NPO 法人西条自然学校理事長）・面河山岳博物館学芸員

参加費：100 円 申込：下記まで、氏名・住所・連絡先をお知らせください。

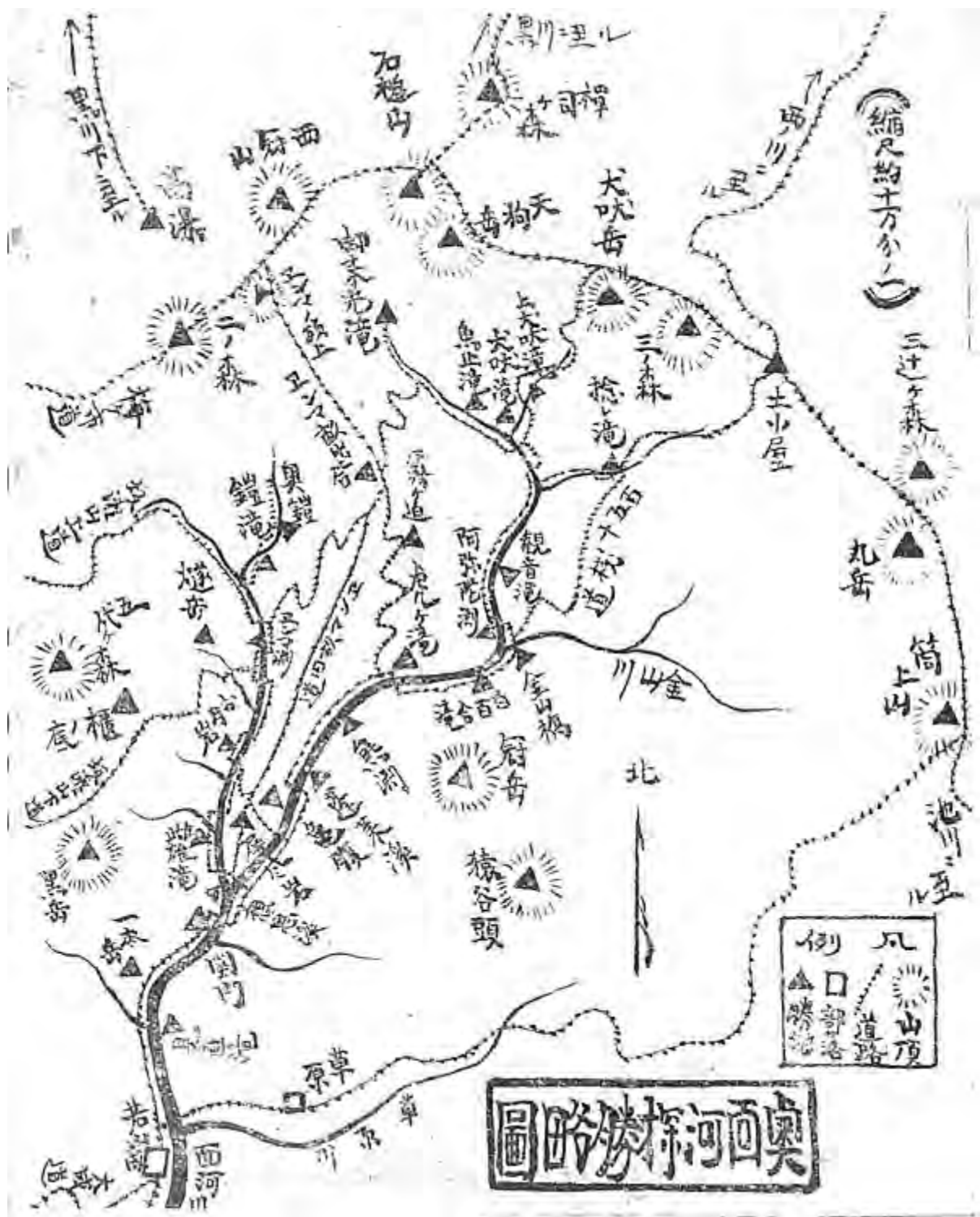
電話/0892-58-2130, FAX/0892-58-2136 (面河山岳博物館)

※午前中は座学とワークショップ、午後からは面河溪で実践講座。昼食は各自でご準備ください。

参加申込票（FAX用）

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	



昭和 2 年に発行された「面河溪探勝略図」

昭和 2 年、大阪毎日新聞社と東京日日新聞社が鉄道省の後援を受け、昭和の新時代を代表するものとして、全国の新聞読者からの投票により「日本八景」を選定した。この略地図は同年に日本八景への登録に向けた宣伝組織として結成された「大面河宣伝会」により発行されたもので、絵葉書セット「面河溪真景」に添付されていたものです。結果、面河溪は次点の百景に選出され、世に知られるようになりました。大正期には既に久万-仕七川間のバス便がありましたが、中組栃原まで繋がったのは昭和 4 年のことです。大面河宣伝会は交通機関の発達の遅れたこの奥地まで、多くの観光客を呼び込もうとしていたようです。